

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491300085		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホーム菜の花湯布院 2階		
所在地	大分県由布市湯布院町川西3661-1		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町村受理日	平成27年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成27年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である①その人らしい生活②自然とのふれあい③地域の方々とのふれあいを基にサービスを実践し、入居者の生活歴に沿って、本人の出来る事をして頂き、各々入居者が自律性を持って生活できるように個別に対応している。また、当事業所は山、川、畑と自然に囲まれた静かな環境の中にあり、散歩や設置されている畑での野菜作りを通して、入居者の方々に季節を感じて頂けるように支援している。地域の方々とのふれあいとして、菜の花では積極的に地域行事に参加したり、当事業所で年1回開催している。交流会や年2回の消防訓練(消防署、消防団、近隣住民)、餅つき等に地域の方々に参加して頂くことで、入居者と地域の方との交流を持てる機会としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階と同様

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員みんなで話し合い、理念を理解しホールをよく見えるところへ掲示している。支援に困ったとき、理念に立ち返り考えるようにし実践につなげるよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所からは地域の方、ご家族に広報誌を配布、地域からは回覧板を通して情報を共有している。施設で行われる行事に参加を促したりして、地域行事にも可能な限り参加出来るよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として、家族会を行っており、定期的に地域を回り、地域の方々が困っている事や、現状を聞き、アドバイス等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、運営推進会議を開催。利用状況や今取り組んでいることなどを話している。会議で出た意見を大切にサービスにいかす様努力している。会を重ねるごとに参加者の意見が出やすい会議になってきている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村、地域包括センタの参加があり、事業所の運営に対してアドバイスをいただいている。また、困難事例や、確認等、常に連絡を密にして協力体制をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを元に研修を行ない、身体拘束の理解をするようにしている。また、身体拘束と見なされる行為は今まで一件も無い。職員は常に研鑽を行ない、施設内虐待、家庭内虐待の無いように見守りを行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員とも研修を行ない、入浴時等に身体状況を観察したり、会話の中などから利用者が虐待にあっていないか確認を行なっている。		

事業者名:グループホーム菜の花湯布院

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を行い、個々のケースを見定め、成年後見制度が必要かどうかの判断を行っているが、今のところ制度を使った方はいない、現在検討中の方が一人いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、ケアプランの作成、ケアプランの変更等は、必ず利用者様、家族様に説明を行い、納得いただいた上でサイン、捺印をいただいている。契約の際はリスクも含め話を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、週一確認を行なっている。利用時、送迎時に利用者家族などから意見、要望等もその都度対応している。家族会を3ヶ月に一回開催し家族の意見要望をくみ取るようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は常に事業所の状態を話し合い、職員の意見、提案等を、それが利用者主体の考えであれば積極的に取り上げる事が出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の処遇改善に積極的に取り組まれており、このことが利用者へのサービス向上につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者と連携をとり、フィードバック研修、OJTで、実務研修を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所等と一緒に研修などを行なっている。また、ものわすれネットワーク等の参加を促し、他事業所との交流の場を設け、日々研鑽努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前にアセスメントを行い、本人のニーズを確認、必要と思われるサービスを確認する。担当者会議を行い、サービスの説明、プランの説明を行い、本人様が安心して生活が出来るように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にアセスメントを行い、家族のニーズを確認、家族あてに家族の思いを書いていただきサービス調整の参考になっている。担当者会議を持ち、プランの説明を行い、納得のいくよう説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、家族のニーズを聞き、最優先課題を洗い出し、出来るサービスはすぐに実行、他のサービスの必要性があれば紹介を行なう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリを中心に支援し、なるべく一緒にやっていくことで介護する側される側ではなく共に生活していく仲間のような関係作りに努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様とはなるべく連絡を密にして、月に1回菜の花便りを作成、送付し、家族様、本人様が安心して生活を出来るために必要なことを話し合い、利用者様が菜の花ですること、役割などを提案し、ともに支援していくことに取り組んでいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様がそれまでしていた生活、場所、人を大切にし、外出、外泊は自由、面会等も自由に行なっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の中でも仲の良い関係の方はなるべく近くの席にできるようにし、孤立してしまいうような方はなるべく相性の良い利用者と一緒にし、職員も間に入りながら関係作りを進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時、スムーズに生活が出来るよう情報提供を行う、終了後も、その後の関係機関に定期的に連絡を入れ、場合によっては訪問をし、協力体制を構築している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくり話を聞きながら一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。また、表出困難な方などには、家族から話を聞いたり、さりげない仕草、表情をくみ取り、本人の思いをくみ取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を導入し、家族に記入していただいている。また、前居宅等に情報提供をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各種アセスメント、センター方式を活用し、本人様の情報を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、担当介護スタッフ共同でモニタリングを行い、アセスメントを作成、課題分析を行っている。ケアカンファレンスを行い、本人様、家族様の意向を考え、より良く生活が送れるように配慮して計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は出来るだけ担当者が記入するようにしており、担当者が現状を把握し他職員に伝えることで職員間の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のニーズを大切にして、共通の日課では無く、個別のプログラムを行なっている。一人ひとりの出来る力を大切に支援を行なっている。		

事業者名:グループホーム菜の花湯布院

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの能力に応じ、その方が利用している社会資源を大切に、なるべくそれが利用できるような支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の希望により、かかりつけの医療機関を利用できるよう心がけている。また、主治医による定期診察に必要時は引率し、適切に情報を伝えたりしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、常に利用者様の心身の状況を把握するように努力し、異変や気づきがあれば、かかりつけ医に相談、対処を検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は可能な限り、必要であると思われる情報を提供し、安心して治療を受けられるようにしている。また、可能な限り医療機関に訪問を行ない情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として重度化した場合を考え対処し、本人家族と話し合いを行なって居る。看取りが必要な場合はそれが可能なところを紹介している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者急変においてはマニュアルを作成しており、法人看護師の指導で研修を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災訓練を行なっている。内、一回は夜間想定訓練を行なっている。その時、地域の方も協力を求め訓練を見てもらい、もしもの際の協力の要請もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけにおいては今まで生きてきた人生の先輩としての配慮を行ない敬語で対応、その人一人ひとりの人格、尊厳を大切に支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや自己決定を大切に支援を心がけており、希望を聞く声かけ等を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表を作成、それに応じて個人のペースを大切に、個別支援を行ない、本人様の自律した生活が出来るように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみを支援し、入浴後、手鏡で髪を整えていただく等、おしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に応じて、調理、準備、台ふき、片付け等行なっている。また、一人ひとりの好き嫌いに対応した食事も考慮に入れて支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて食事形態を検討している。食事量、栄養バランス、水分量も考慮に入れ、足りなくならないように支援を行う様努力している。又、自宅での食事形態も把握し、同様の食事を提供できるよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを自分で出来る方においては見守り等行い実施している。自分で出来ない方においてはスタッフが対応、口腔ケアを行なうが、毎食後出来ているとはいえないのが現状である。		

事業者名:グループホーム菜の花湯布院

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、自立支援、残存能力の保持の視点で排泄自立に向けた取り組みを行なっている。排泄が自分でいけない方においては排泄パターンの把握に努め清潔、不快にならないように支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方に対しては排便状況を確認記録を行ない、なるべく自然に排便が出来るよう、水分量や排泄を進める食品等を考え支援を行なっています。また、適度な運動を勧めたりもしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通所や宿泊の際、本人に希望をとり、入るか入らないか、いつ入るか聞いて入浴を行なうようにしております。また、入浴介助は担当スタッフが介助するように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	通所利用の際は、その日の睡眠時間や体の調子を確認し、その状況に応じて対応している。場合によってはベッドで休息も行ないます。宿泊においては夜ゆっくり眠ることが出来るよう、散歩等を行ない日中の活動量を確保するように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬がある利用者においてはその薬のファイルを作り、職員が把握できるようにしている。薬を管理できない方はこちらで管理を行ない確実に飲めるような方法をとっております。投薬変更時は変更しての状況を把握するように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、趣味、特技をアセスメントし、その個性に応じた支援を行なうよう努力をしている。その人それぞれが楽しんで行える活動を可能な限り用意するよう配慮を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて、買い物などを一緒に行っている。また、いつも室内にいたのではなく、晴れた日は外に出るようにしている。花見や紅葉狩り等季節に応じた行事を企画している。		

事業者名:グループホーム菜の花湯布院

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方にはお金を持たせていただき、通院、買い物等には自分で支払いをしていただきながら購買活動が継続できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の使用出来るようにしている。最近では携帯電話の普及で、事業所内で携帯はいつでも使用できる環境である。携帯電話を所持されている方は自由にかけることが出来ます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のテーブルには可能な限り季節の花などを置き、家庭的な雰囲気につとめている。また、冷暖房と床暖房で、利用者様が不快とならない温度設定に留意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では仲の良い関係の方は一緒に居れるように配慮を行なっている。ホールに畳の空間を作り、他の人と違う空間を作り、過ごしていただく等配慮を行っている。ひとりになりたいときは居室を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自分の心地良いように家具の配置等をレイアウトし、くつろげるようにしている。使い慣れた物の持ち込みも制限していない。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントによりその方の把握を行ない、同法人のセラピストによる指導で自立支援を行なっている。そして、安全かつ自立した生活が送れるように支援しているところです。		